



正岡 千博 議員

築港・白水線の今後

問

- ① 通行車両等の増加による安全対策を。
- ② 保健センター等への進入路を設置しては。
- ③ 梢川の河床の有効利用を望む。
- ④ 総合的な検討、見直しの必要性を問う。

答 産業建設部長

- ① 銀杏通り交差点は近年中に歩道整備が完了予定で、通行車両が増加すると考えられる。しかし、途中に幅員が狭いJRR予讃線の松本踏切があるが、街路計画を考慮すると、踏切改良は困難である。
- ② 今後保健センター等の

跡地利用が明確になった時点で検討したい。

③ 街路計画と松本踏切を考慮すると現状のまま管理したい。

答 中村市長

- ④ 市街化区域内には10本の都市計画道路を計画しているが、長期未着手路線もあることから、国道も含め、総合的な道路網の見直しが必要である。本年度より交通量調査を進めており、結果をもとに道路網の見直し案を作成したい。

伊予市に学芸員を

問

- ① 学芸員の仕事の内容を問う。
- ② 県下、各市の学芸員の現状を問う。
- ③ 伊予市に学芸員を。

答 春田教育長

- ① 博物館法では、博物館資料の収集、保管、展示

及び調査研究等の事業についての専門的事項をつかさどるとある。

近年、自治体に採用された学芸員の多くは、小・中・高生対象の体験学習や成人対象の教養講座を企画し講師を務めたり、市民から専門分野についての相談を受けるなどの仕事もある。

② 県内では5市が学芸員として採用している。しかし、博物館相当施設についても学芸員資格を持った専門職員が配置されており、同等の活動が展開されている。

③ 本市にも学芸員資格を持つ職員がおり、登録博物館が建設された場合は、この職員を配置することは可能である。今後建設される歴史資料館や文化施設から本市の魅力を外内に積極的に発信していくためにも、優秀な人材が配置されるとの認識のもと、検討協議を行い、早期実現に努めたい。

イノシシ被害の現状と対策

問

- ① 電気柵等、補助事業の対応を問う。
- ② 増加傾向の中、駆除対策について
- ③ 放棄環境を早急に整備する方策を問う。
- ④ 情報の共有と関係機関が連携する方策を問う。

答 中村市長

① 平成21年度から国の補助を受け、広域的な電気柵の設置、箱わなの購入など鳥獣害防止総合対策事業に取り組んでいる。



捕獲用の箱わな

また、JAえひめ中央を事業実施主体として、要望のあった農家に対して県並びに市補助による事業を実施している。

② 猟期外に駆除した有害鳥獣を買い上げ農作物の被害軽減に努め、さらに、箱わなを猟友会等へ貸し出し、安全で効果的な捕獲を推進している。

③ 中山間地域等直接支払制度、農地・水・環境保全向上対策に取り組み、農用地の維持管理に努め、耕作環境の整備を図っている。

④ 農業者・JA・猟友会・住民が協働し、地域ぐるみで防止対策に取り組むことが重要である。今後も、専門家等の協力を得ながら猟友会や農業団体と連携し、鳥獣害防止に努めていきたい。

その他の質問事項

・伊予岡古墳群・照葉の森を市民のいこいの場に